

教育目標	
豊かな心を持ち、よく遊び、健やかに伸びる子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和7年8月26日	学校運営協議会（なかよし会）
最終評価		

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none">・子どもの安全・人権を守り、自他ともに命を大切にする子どもの育成に努める。・子どもが心を動かし、主体的に遊び、様々な気付きを得て、自ら工夫したり、他者と協働する喜びを感じられる教育・保育環境を整備する。・園内及び地域の自然環境や施設、諸団体との連携・交流により、幅広く豊かな体験ができる取組を推進する。・学校運営協議会、PTA、おやじの会、地域の保育園やこども園・私立幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学等の協力・参画を得て、連携を深めながら、開かれた幼稚園づくりを推進する。とりわけ、幼保こ小の連携・交流により、縦横のつながりを深め、子どもの育ちと学びをつなげる。・幼稚園と家庭が子どもを真ん中においた連携・取組をすすめ、地域の子育てを支援する。預かり保育や未就園児3歳児について3年保育3歳児と同等な経験ができるように取り組む。・危機管理マニュアルを常に更新し、研修や訓練を行い、非常時において適切な対応を目指す。・互いの持ち味を活かし、高め合える温かい教職員組織力を築き、一人一人の資質や指導力の向上を図るとともに、ワークライフバランスのとれた働き方を目指す。
（取組結果を検証する）各種指標

- ・週案の振り返りによる環境構成の見直しや日々の保育カンファレンスによる子どもの姿の見取り
- ・園内でのエピソード研修や研究保育、協議による子どもの姿の見取り
- ・保育活動充実のための ICT 活用での振り返り

アンケート

「子どもは、幼稚園の遊びや生活の中で、面白がったり、不思議がったりなどと、様々な環境、事象に心を動かしている」

「子どもは、心動かした様々な環境や事象に、自ら積極的にいかかわり遊ぶことを楽しんでいる」

「子どもは、心動いた自分の思いを様々な方法で表現しようとしたり、先生や友達の話や姿に興味をもって聞いたり見たりしている」

「子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動に興味を持って楽しんでいる」

「子どもは、幼稚園きょうだいへの親しみを感じている」

「子どもは、絵本を見たり、お話（あるいはイメージ）の世界に思いを膨らませたりすることを楽しんでいる」

「幼稚園は、子どもが心を動かし、夢中になって遊び込める環境を工夫している」

「幼稚園は、子どもが様々な素材や環境に触れ、遊べる機会を設けている」

「幼稚園は、子どもの自立心を育むための援助や環境を工夫している」

中間評価

各種指標結果

- ・週案の振り返りによる環境の再構成を積み重ね、10の姿の中でも自立心に焦点を当てた保育を工夫した。
- ・地域の竹林や稲荷山へ園外保育に複数回出かけたりして、地域の自然に親しんだ。
- ・ICTを観察に用いたり、視覚的に確認できる工夫をした。
- ・園外保育や園内で一緒に遊ぶ機会を通して、幼稚園きょうだいとの温かいかわりが見られる。
- ・砂・泥・色水・泡・粘土・絵の具など様々な素材に触れる遊びを体験し、感触を楽しんだ。思いのままに楽しみ、思いを素直に表出することを今後も続けていきたい。
- ・総合遊具のほか、竹馬や一本歯下駄、プール遊びなど体を動かすことを十分に楽しむことができた。

アンケート（A：大変そう思う Bそう思う Cあまりそう思わない Dそう思わない）

様々な環境、事象に心を動かしている（A73.6% B26.4%）

様々な環境や事象に、自ら積極的にいかかわり遊ぶことを楽しんでいる（A58.4% B41.6%）

自分の思いを様々な方法で表現しようとしたりしている（A65.3% B34.7%）

自然とのかかわりや飼育、栽培活動に興味を持って楽しんでいる（A70.9% B29.1%）

幼稚園きょうだいへの親しみを感じている（A54.2% B38.8% C7.0%）

絵本を見たり、お話の世界に思いを膨らませたりすることを楽しんでいる（A54.2% B43.0% C2.8%）

園は、子どもが心を動かし、夢中になって遊び込める環境を工夫している（A69.5% B26.4% C4.1%）

園は、子どもが様々な素材や環境に触れ、遊べる機会を設けている（A80.6% B19.4%）

園は、子どもの自立心を育むための援助や環境を工夫している（A58.4% B37.5% C4.1%）

自己
評

分析（成果と課題）

- ・「子どもが様々な素材や環境に触れ、遊べる機会を設けている」ことへの評価が高く、園が豊かな環境づくりに努めていることへの評価ととらえることができる。それが、「様々な環境、

価	<p>事象に心を動かしている」子どもの姿にもつながっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンゴムシやカタツムリを飼育しどんな餌が好きか考えたりなど、小さな命に触れ、自然を身近に感じ、愛着の芽生えが見られた。 ・毎年筍掘り等でお世話になっている地域の竹林への園外保育に保護者参画をするなど、子どもの興味を保護者と共有することで保護者にも園や地域の自然への関心が高まった。 ・幼稚園きょうだいに対する親しみの様子には個人差が見られ、アンケート結果にも表れている。後期は行事も多いため、幼稚園きょうだいが互いに思い合えるような環境づくりを行い、保護者への発信を進めていく。 ・1学期は、端午の節句や七夕の行事等でお話の世界にイメージを膨らませる経験をしてきたが、2学期、3学期とさらに絵本の世界や、絵画制作活動や楽しい集い、生活発表会など行事の経験で、さらに想像性や感性、表現力を養っていけるようにかかわっていききたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが夢中になって遊び込み、心を動かし、感じたり、気付いたりしたことを伝え合えるように、園の環境構成を整えたり、園外保育を計画したりしていく。 ・様々な素材に触れて思いのまま遊んだり、思いを表現したり、イメージを膨らませたりする活動を行う。 ・自分の力を発揮したり満足感や充実感が味わえたりできるよう、体を動かして遊ぶこと等を継続して行っていく。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の振り返りによる環境構成の見直し ・日々の保育のカンファレンスによる子どもの姿の見取り ・園内でのエピソード研修や研究保育、協議による子どもの姿の見取り <p>アンケート 前期と同じ項目</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は「自立心」に着目して研究を進めているとの報告を受け、幼稚園がその年年の子どもの姿から目標を設定し、しっかり取り組んでいることが良く分かった。 ・地域の自然に親しみを感じることはとても良いし、これからも大切にしてほしい。苗屋さんへの参加や七夕の笹の提供等も継続していきたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(2) 幼保小の架け橋プログラムの推進に関して

具体的な取組

- ・横のつながりも築いていけるよう、近隣の保育園、こども園も交えた交流、連携を行う。その際、幼保こ小が無理なく継続して連携を積み重ねていける年間交流計画を立てる。また、交流後の事後協議を大事にし、そこでの意見が次の交流に反映され、柔軟かつ連続性ある活動となるよう、幼小接続実績のある幼稚園が話し合いの核となって協議を進めていく。
- ・幼保こ小の子ども同士が、より個への思いを深めていけるよう年度当初に固定の小グループをつくって取り組んでいく。
- ・自園の研究保育を近隣の幼保こ小に公開し、幼児期の育ちや学びの共有を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・交流の事前事後協議の実施と『10の姿』『資質・能力』などの視点での協議内容
- ・研究保育の公開と協議の実施と内容

アンケート

「子どもは、小中学校（近隣の保育園・こども園）との交流を楽しんだり、親しみや憧れなどを感じている」

「幼稚園は、小中学校（近隣の保育園・こども園）とのつながりをもてる環境を工夫している」

中間評価

各種指標結果

- ・架け橋プログラムを軸に、小学校や近隣の保育園、こども園との交流を進めることができた。今年度は1小3園での取組初年度で、無理なく今後も持続可能な取組にしていくことを念頭に進めた。
- ・担当者や管理職での事前事後の架け橋会議を対面で行うことを申し合わせ、お互いに可能な時間を捻出して実施した。
- ・学期に1回、校園長会議を開き、年間を見通した取組になるように意識した。
- ・今後は、年間通じて子どもの姿をみとっていく共通の視点を挙げ、その視点をもとに子どもの姿を見つめ、交流前後の協議をしていくことを進めていきたい。

アンケート

子どもは小中学校等との交流を楽しんだり、親しみや憧れなどを感じている（A59.7% B34.7% C5.6%）

幼稚園は小中学校等とのつながりをもてる環境を工夫している（A70.9% B26.4% C2.7%）

自己評価

分析（成果と課題）

- ・架け橋プログラムの全面実施により、保育園やこども園が小学校とつながりたいと声をあげたことがきっかけとなり、今年度の幼保こ小の交流がスタートした。今までは個々につながっていたものが1小3園合同でつながることができた。また、事前事後の会議の定例化に努めたことで、成果や課題を共有し一体となって進めていく気運を高めることができた。
- ・5歳児中心の交流活動だったため、5歳児の評価が高く、4歳児の評価が低かった。後期は幼保こ小の交流活動の内容やそこでの育ちを4歳児も含めて広く発信する必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

事前事後の架け橋会議、学期ごとの校園長会議、交流活動を、次年度以降も継続できるものに創り上げていく。そのために、子どもの育ちや課題、願いなどを共有し、架け橋期の取組や今後の交流の在り方を協議し連携を深め積み上げていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

	・ 交流活動の振り返り、交流の事前事後会議の協議内容 アンケート 前期と同じ項目
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園と小学校のつながりを軸に、それが保育園やこども園にも広がっていることは大変嬉しい。忙しい中で大変だとは思いますが、さらに深まっていくことを期待している。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
自己評価	<div>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <div>分析を踏まえた取組の改善</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div>

(3) 預かり保育に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未就園 3 歳児の心身の負担、また支援を要する子どもの人数、状況に応じて、午睡や休憩ができる環境、安心で安全に遊べる環境、人員体制を毎日話し合い保障していく。 ・ 異年齢児一人一人が安心して過ごし、一緒に遊び、過ごすことを楽しめるような玩具の準備や厳選、一日の流れについて、担当者と担任で連絡を取り合い、随時検討、再構成していく。
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育週案の振り返りによる子どもの姿の見取り ・ 担当者と担任との連携の振り返り <div>アンケート</div> <p>「子どもは預かり保育に安心して参加している」</p> <p>「未就園 3 歳児の預かり保育や 8 時から 18 時までの預かり保育は子育ての支援につながっている」</p>

中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 歳児の午睡は保育室を中心に適した環境を模索し、昼食後一定時間の休憩時間を設け午睡を促した。夏季休業中の預かり保育では、4・5 歳児も暑すぎる夏を健康に過ごすため昼食後の休憩時間を設け、午睡がしやすい環境を整えた。 ・ 3 学年が同じ場で遊ぶため、それぞれの発達に応じた玩具やその配置の工夫を行った。 ・ 子どもの遊びの様子や健康面について担当者と担任を中心に連絡連携し、必要に応じて家庭にも様子を伝えた。
--

アンケート	
安心して参加している（A82.0%、B18.0%）	
未就園3歳児の預かり保育は子育て支援につながっている（A77.8%、B22.2%）	
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・昼食後に設けた一定時間の休憩・午睡の時間は、ある程度定着し、午睡が必要な子どもが眠れることで様子も安定してきた。 ・今年度も3歳児の参加が増えており、玩具の扱いや部屋での過ごし方への不慣れから、全体的にやや落ち着かない様子が見られた。また支援に必要な園児の参加も増え、人手が必要な状況がある。環境を工夫したり、ボランティアを配置するなどして対応してきたが、まだまだ工夫が必要である。3歳児が4・5歳児の遊びを間近で見ることで学ぶことや、下の学年の子に上の学年の子が遊びを教える中で学ぶことも多くあり、異年齢で遊ぶ貴重な機会であるこの時間を大切にしたいと考えている。 ・アンケートから保護者は概ね預かり保育に安心して参加している。その一方で、新たな環境に慣れることを優先に考え、まだほとんど利用していない子どももいたり、長時間幼稚園にいることに戸惑う子どももいたりする。毎日の預かりの時間を楽しみに参加できるような環境や、安心できる居心地がよい雰囲気心をかけていく。また、保護者の就労等や家庭事情により毎日参加する子どもがマンネリ化しないよう、遊びの内容や場づくり、教材選びなどを工夫していきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・支援に必要な園児への配慮や、4・5歳児が楽しめる玩具と3歳児が楽しめる玩具を意識した遊びの場の環境構成をする。 ・学校運営協議会の方に協力いただいているボール遊びや昔あそび、絵本の読み聞かせなど、子どもが楽しみにできる企画や季節に応じた遊びを今後も取り入れていく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・週案による振り返りと発達や年齢に応じた玩具の出し方など環境構成の見直し
	アンケート 前期と同じ項目
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育利用が増えてきて先生たちは大変だと思うが、子育て支援に向けて頑張ってもらいたい。学校運営協議会としても、預かり保育充実のために、ボール遊びや絵本読み聞かせ等に協力したいと思う。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
---------	----------------

（４）子育ての支援に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児３歳児クラスでは、子どもの実態を共有し信頼関係づくりとなるよう、年度当初に保護者、担当者、園長で懇談する時間を設ける。 ・０～３歳児親子・２歳児親子クラスにおいて、保護者同士がつながれ、子育ての悩みを話し合える場となるよう、定期的にテーマを取り上げた座談会（トイレ・食事・同年代の友達とのかかわりなど）の場を提供する。 ・在園・未就園児保護者同士が子育ての喜びや苦労を共有し、つながる場として誕生会後に「ほっこり子育てひろば」を行う。
（取組結果を検証する）各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談開催回数と参加者 ・子育てのことを話す場の開催数と参加者数、話し合いの内容・感想

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none">・教育相談開催日（４月～８月） ひよこ組（週５日毎日開催）、ぷちひよこ組４０回・延べ２３５組、たまご組２７回・１６３組参加・ほっこり子育てひろば４・５・６・７月分 １３人、誕生会参加保護者にて実施 日頃の子育てで意識していること、うまくいなくて悩んでいること、などを交流した。 同じ悩みを抱えていることに共感したり、自身の経験を助言したりしてつながりを深めた。・たまご組ぷちひよこ組「トイレのことを話そう」開催 ８組親子参加
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none">・未就園児親子が集う場を開催する中で、保護者は子どもが安心・安全に遊ぶことができる場を求めている声が聞かれ、そのような場の必要性を感じた。・ほっこり子育てひろばでは、同学年だけでなく他学年の保護者とも語らうことで、先輩の助言を聞き気持ちが楽になったり、自分の子育てを振り返ったり見直したりする様子が見られた。・トイレの話をする場を設けることで、自分の工夫や苦労などを話したり、他の家庭の工夫などを聞くことができ、励みになっていた。また、幼稚園のトイレを使うことで家庭以外のトイレを経験し、排泄の自立に向かう一助となっていた。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none">・誕生会後のほっこり子育てひろばを継続するほか、子育てのことを気軽に話せる機会をたまご組やぷちひよこ組で設けていく。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none">・教育相談開催回数や子育てについて話す場の開催数と参加者数、話し合いの内容・感想（前期と同様）

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での大人同士のつながりが希薄になっている中、子育ての不安を相談したりする場所は今後もますます必要になってくる。幼稚園がその役割を果たそうと頑張ってくれているのはありがたい。地域としても協力していきたい。
---------	--

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・竹林や稲荷山へ年間を通して出かけ、地域への愛着や地域の人への親しみにつながる活動内容をそのつど計画、実施していく。 ・学校運営協議会を中心に、地域の人とかかわる機会（苗屋さん・カレーパーティー・絵本読み聞かせ・昔遊びなど）を設け、地域の方々に子どもへの願いや活動内容の意味などについて伝え、本園の教育活動への理解を促す。
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への園外保育（散歩を含む）や園外保育後の保育での子どもの姿の見取り ・保護者や学校運営協議会を含む地域の方の意見の聞き取り <div>アンケート</div> <p>「子どもは園外保育を通して、深草地域の様々な場所や自然、人を知ったり、興味を持ったりしている」</p> <p>「幼稚園は、子どもが深草地域を身近に感じ、親しみや愛着がもてるような環境を工夫している」</p>

中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふかふか竹林」への園外保育では、令和6年度から保護者参画を実施し地域の自然との触れ合いを園がどのように進めているのかを保護者の目で見えていただく機会を作った。 ・地域への園外保育では「みつけバック」を活用し、そこに見つけた自然物をバッグに入れ、帰園後にバックの中を見直すことで見つけたものや行った場所へ思いを寄せていた。 ・苗屋さんや七夕の活動等の行事参加や協力、園外保育の引率、預かり保育での絵本の読み聞かせやボール遊び等、地域の方が子どもたちにかかわっていただく機会をたくさん設け、子どもたちとのかかわりや園の教育活動への理解を深めた。
--

アンケート：深草地域の場所や自然、人を知ったり、興味をもっている（A55.6% B44.4%） 地域を身近に感じ、親しみや愛着がもてる環境を工夫している（A52.8% B47.2%）	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・竹林への園外保育に保護者に参画してもらうことで、「地域のこんな豊かな自然があることを知らなかった」「幼稚園が自然や地域とのつながりを大切にしている理由が実感できた」などの意見が聞かれ、地域の自然に対する関心が深まり、園の活動に対する理解が一層進んだ。 ・竹林への園外保育など地域を歩く中で、いろいろな気づきをすることで、子どもたちは地域を知り、自然への関心が高まったり愛着を感じたりすることができた。 ・学校運営協議会の方を中心に地域の方とかかわる機会をたくさん設けることで、地域の方の存在が子どもたちにとってより近くなり、親しみを感じている様子がうかがえた。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・後期も稲荷山園外保育を行い季節の違いを感じる。また、ドングリ拾いなどの園外保育に出かけ、広く地域を知る機会をつくる。 ・園外保育の活動と園内の遊びがつながることで活動が広がり、豊かな経験となるよう工夫する。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・園外保育の活動と園内の遊びや生活とのつながりの見取り <p>アンケート 前期と同じ項目</p>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・後期も稲荷山への引率補助など安全面への協力を行う。 ・園行事に参加、または協力し、園児の活動にかかわる中で子どもたちの成長を肌で感じることができる。かわりを楽しみにしている。 ・園の活動内容やそのねらいを丁寧に発信することは、園への信頼を深めていくためにも重要だと思う。これからも頑張ってもらいたい。

最終評価

<div>（中間評価時に設定した）各種指標結果</div>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div>

（６）教職員の働き方改革について

<div>重点目標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が一人一人の力を発揮でき、働きやすさと働きがいを感じられる円滑な園運営を行う
<div>具体的な取組</div>

<ul style="list-style-type: none"> ・会議の開始・終了時刻を明確にし、事前に資料に目を通すなど、時間を意識した進行を行う。 ・ノー残業デーのポスター掲示と職朝での周知を実施する。 ・連絡アプリ活用による登園前の電話対応減少や保護者配布物印刷の一部削減、同時に保護者への発信方法の見直しを行う。
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・会議資料の事前配布の状況と時間内での進行状況 ・ノー残業デーの周知と状況 <p>アンケート</p> <p>「幼稚園は、ホームページやInstagram、毎月のふかふか広場（おたより）などで、幼稚園教育の意義や日々の遊びの様子、子どもの育ちや学びなどをわかりやすく発信している」</p>

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・会議資料事前配布は概ねできており職員会議は時間内に進行できている。 ・ノー残業デーの周知をしているが、その時々保育準備状況に左右されている。 <p>アンケート HP やインスタ、アプリ配信などでわかりやすく発信している（A69.5% B30.5%）</p>
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を意識した会議の議事進行は概ねできていた。各人に起こる諸課題も日常のコミュニケーションにより概ね共有でき対応することができた。 ・個別対応が必要な保護者が複数名おられ、時間管理が難しかった。降園後、保護者へ子どもの様子等を伝達したり、共有したりすることにかかなりの時間を要した。 ・保育後の預かり保育利用者には、毎日の降園時の伝達をするための連絡ボードが役に立っている。 ・連絡アプリの活用によりペーパーレス化が進んでいる。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・会議時間の開始と終了時刻を明示し、時間を意識した会議の進行をするとともに、資料の事前配布は引き続き行う。 ・それぞれの勤務時間を意識し、超過勤務削減に向けた業務の精選を進めていくよう指示する。 ・個別対応が必要な保護者対策を関係各所と連携して進めていく必要がある。 <div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・時間内の会議終了時刻の確認。 ・保護者対応に要した時間の確認。 <p>アンケート（前期と同じ）</p>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・大変丁寧に保育に取り組み、子どもたちの笑顔もたくさん見られる。先生や職員の努力のたまものだが、教職員も健康管理に努めてほしい。協力が必要な時は、遠慮なく声をかけてほしい。

最終評価

<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div>

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策